

米のコスト指標作成のための準備会合 結果概要

日時：令和7年10月3日（金）13:30～14:30

出席者からの主な意見

（生産・集荷団体）

- ・コストはあくまで原価であり、営農継続にはこれで十分というようにとられないよう、関係者の理解を得ながら進めていく必要。
- ・大型機械やスマート農機の減価償却費を考慮する必要。労働費の算出においても、他産業並の所得水準を十分意識する必要。
- ・食料システム法が施行される来年4月の指標公表を目指す場合、様々な考慮要素がある中、時間的に心配な部分がある。
- ・このメンバーだけで決めた指標が取引において活用される指標として妥当と評価していいものか。
- ・コスト指標作成に当たっては、中山間など地域差や、人件費やスマート農機の価格上昇を考慮してほしいとの声がある。
- ・コスト指標が独り歩きすることを懸念。高い・安い両面から論じられる可能性がある。現状についての理解醸成を、国も十分考えてほしい。
- ・指標は業界だけでなく広く消費者にも公表されるものであり、指標の使われ方や意義も含め、広い意味での理解醸成が必要。業界だけでなく、農水省にも十分対応いただきたい。

（卸売団体）

- ・米価が高くなったということだけがクローズアップされており、コスト指標を出すことで誤解が発生することを大いに懸念。自由経済の原則の下で取引価格が決まることや、コスト指標の意味についての国民理解が重要。

（小売団体）

- ・農産物は相場に左右されるため、コストの積み上げだけで価格の妥当性を明確に説明するのは難しいと思う。
- ・小売段階のコストは、決算資料や業界団体の調査で把握した利益率から、大体のイメージとして算出できると考えている。
- ・コスト指標の算出時点をいつにするか目線を合わせる必要。

（以上）